

あてにつなげた。

めあて：おもてなしについて考えてみよう。

(3) パラリンピアン「マセソン美季さん」が藤木小に来るとしたら、高学年としてどのようなおもてなしをしたらよいただろうか？

- I'm POSSIBLEを活用して、以下を確認した。
 - ・ マセソン美季さんについて
 - ・ マセソンさんが学校に来るまでの道のり
 - ・ 学校環境や教室環境
- 個人思考→グループ交流→全体交流を行った。



〈児童の反応〉

- ・ エレベーターをつくる。
- ・ スロープをつくる。
- ・ 駅まで迎えに行く。
- ・ 階段では肩を貸す。おんぶする。
- ・ マセソン美季さんに「してほしいこと」をたずねる。



どれが一番のおもてなしになるだろう？

- I'm POSSIBLE 付属のDVD「マセソン美季さんからのメッセージ」を見て、ふりかえりを書く。

II. 講演を通して、おもてなし体験をしよう。

(1) 筑波大学客員教授「江上いずみ」先生の話聞いた。

※ 石峯中学校の生徒と合同で講演を聞くようにした。



○ 講演の主な内容

ア. おもてなしの心とは

- ・ お持て成し・・・心をもって行為を成す
- ・ 表なし・・・表面的でなく本心で
- ・ 相手の文化を学ぶ
- ・ 日本の文化を外国の方に伝える



イ. 第一印象を高める5原則とは

- ①表情： 笑顔は1円もかからないおしゃれ
- ②態度： 姿勢よく、胸をはる、視線をあげる
- ③身だしなみ： 一緒にいる人に不快な思いをさせない
- ④言葉づかい
 - ・ ごめんなさい→申し訳ありません
 - ・ ご苦労様でした→お疲れ様でした
- ⑤あいさつ
 - ・ 同時礼： 言葉と動作のタイミングが同じお辞儀
 - ・ 分離礼： 言葉と動作を別々にするお辞儀
 - ・ 先言後礼、後語後礼

(2) ふりかえりを書く。
(3) 講演の内容や児童の感想を、下記のように学級通信等で家庭に発信した。

| | |
|---------------------|---|
| | <p>Ⅲ. ボッチャを通して、異文化を学ぼう。</p> <p>(1) パラリンピックでは、どんな競技が行われているのだろうか？ ○ I'm POSSIBLE を活用した。</p> <p>(2) ボッチャとは、どんなスポーツだろうか？ ○ I'm POSSIBLE を活用した。</p> <p>(3) ボッチャをやってみよう。</p>  <p>(4) ふりかえりを書く。</p> |
| 6 主な成果 | <p>グローバルマナーとおもてなしの心を学ぶことを通して、主な成果が2つ見られた。</p> <p>① 自己を確立するとともに、他者を理解し、受け入れようとする児童の姿が見られた。</p> <p>以下は、学習後の児童の感想である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしが車椅子に乗っていて「かわいそう」と言われたら、いやな気持ちになる。自分事として考えたら、車椅子の人の気持ちが分かった。 ・やる前に決めつけない。やってみて無理だったら、他の方法を考える。勝手に決めつけるのはいけないことだと学んだ。 ・障害があってもできないことはないと学んだ。 <p>② 礼節を重んじ、異文化を尊重した助け合いとは何かを考え、自分の目標につなげる児童の姿が見られた。</p> <p>以下は、学習後の児童の感想である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変に忸度すると、自分も嫌な気持ちになるので、正直に「こうしてもいいですか？」と相手にたずねるようにしたい。 ・あいさつ運動で、どうしたらみんながあいさつを返してくれるのか悩んでいた。今後は、相手の目を見て、明るい声であいさつしたい。自分の印象を変えていきながらいろいろな方法を試していきたい。 |
| 7実践において工夫した点(事業の特色) | ○ 中学校区はもちろん、他校とも情報交換し、本校の実態に合った学習計画を立てた。 |
| 8主な課題等 | ● 特設单元となるため、「どの学年が」「いつ」「どのように」授業を行うのか。調整がむずかしかった。 |
| 9来年度以降の実施予定 | 来年度も中学校区や他校と連携を取りながら、I'm POSSIBLEの教材を活用して「Ⅰ」と「Ⅲ」の視点に重点を置いて実施していく予定である。 |